

2023年(令和5年)

第51号

(6月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会

発行責任者：渉外部長 澤村悦玄

編集委員長：渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町 230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～季節の風物に心を寄せて～ 宇治支部文書布教担当 大野友理

今月は宇治支部の大野が担当させていただきます。よろしくお願ひ致します。

主人の仕事で二年前に宇治に引っ越してきました。新天地で不安もありましたが、お手配を頂いた住居のそばには畑が広がっており、その景色を見るとなんだかホッとしていました。

ある時、畑を散策中に農業の仕事の求人を見つけ、そこで働くことにしました。そこでは収穫した野菜の仕分けや、袋詰めなどを主にしています。農業に携わる中で、野菜一つとっても、たくさんの方々が関わって、私たちの食卓まで届くこと、またその季節になれば実がなり、収穫できることに嬉しい気持ちや、自然の力に感動します。

毎日野菜に触れていると、野菜一つ一つに生きる力や個性があるように感じられます。その特徴を活かし、よりよい商品に仕上げ、出荷するのですが、佼成6月号会長先生の「自然は文句を言わず黙々とあるべき姿を見せ、多くの命を生かし、大自然は真理を黙って実行している」のところ読み、その通りだと思いました。土や水、太陽の光に加え人間の手入れあがって一つの商品になる。すべてに命があり、つながって完成されていくのが、単純に会長先生がおっしゃる通りだな、

すごいなと感じました。

今年の三月から、宇治支部では支部長さんのお慈悲で佼成拝読会のお手配を頂いています。拝読会の中で、私が苦手な思っている主人のお義母さんのことを話させて頂きました。支部長さんは「心を柔らかくもつこと。義母との心の平行線の距離は交わることはない。けれど近づくことはできる」と教えてくださり、交わるように頑張ってきた私にとって、目からうろこでした。お義母さんと仲良くしたい気持ちを大切にしたいと思っていた自分を思い出しました。心を修正できる法座を頂いて、感謝しています。おかげさまで母の日の前、お義母さんから電話が入りました。一瞬ドキッと心が動きましたが、落ち着いて出してみると、お義母さんに対して無理じゃなく笑いながら話している自分が嬉しく、温かい気持ちになりました。

また、今回平安だよりの原稿を書いている時、初めの2～3行で詰まっている私に、主人が内容も分からないながらも「頑張れ」と一言、言ってくれたのが、すごく嬉しかったです。

この原稿のお役のおかげさまで、会長先生のご法話をより深く読ませて頂き、たくさん学びを頂きました。一気に進まないけれど、一歩ずつ進んで行きます。ありがとうございました。

あなたのお仕事を教えて下さい ～中央支部 林 岳樹さん～

Q：仕事先はどちらですか。

A：河原鉄工株式会社

Q：どのような仕事内容ですか。

A：主に旋盤加工を行っています。旋盤加工技術、溶接技術など身に付けました。中学卒業から働きだして、勤労年数は約35年になりました。

Q：過去にはどちらにお勤めでしたか。

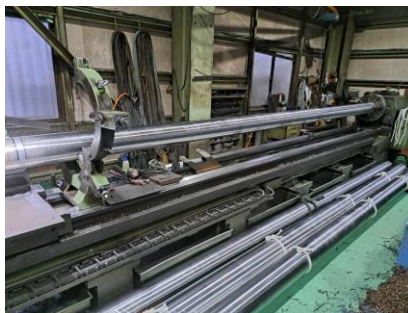
A：途中19歳ぐらいに転職し、佐川急便で1年間ほどアルバイトで働き、いずれ正社員になろうと思っていましたが、仕事の内容がきつく思っていた時に、河原鉄工の社長さんからもう一度こっちに戻ってこないかと言われ、今になります。

Q：仕事中に心掛けていることがあれば教えて下さい。

A：品質の良い製品を作る事、また、偉そうな態度や

気持ちは決して持たず、周りの雰囲気や和やかに、自分としては癒し系になれば良いなあって思っています、心がけています。

これからも、この会社で仕事の人生を全うしようと思えます。こつこつと頑張っていこうと思っています。



←林さんがいつも使用されている旋盤

令和5年、私たちは「日々感謝 にこにこ元気に出会いたい ありのままの私から」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/>